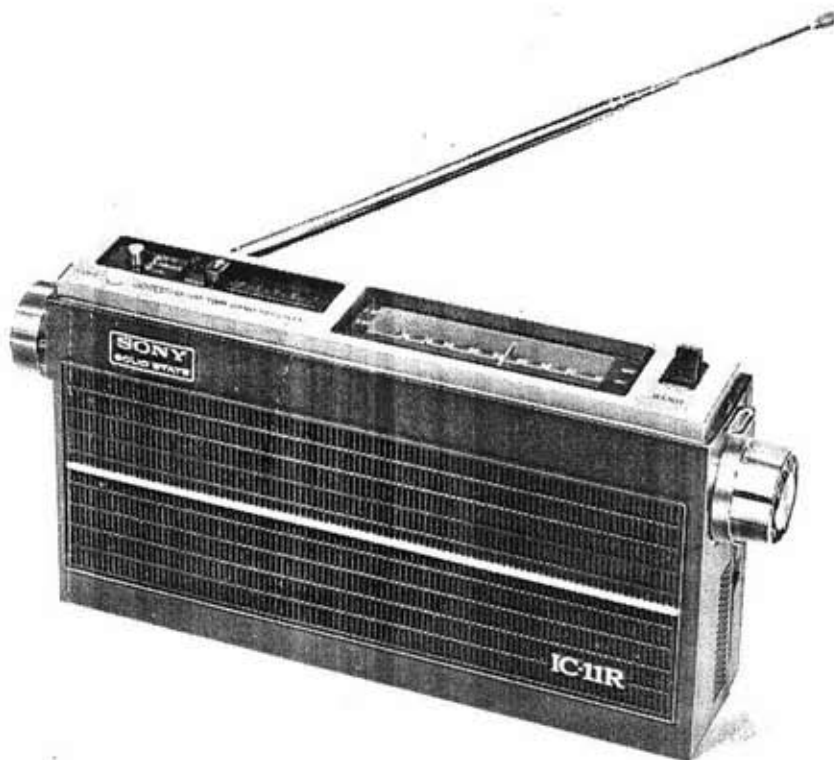


増刊



発売日

概略仕様

構成

回路方式	11C 1FET 10石スーパーヘテログイン
アンテナ方式	AM: パーアンテナ 10φ 160mm FM: ロッドアンテナ 7段 85cm
大きさ	幅 222×高さ 126×奥行 55.5mm
重さ	1.1kg (電池を含む)
電源	DC 4.5V (UM-2×3) AC 100V
スピーカー	9.2cm 8Ω
ジャック	REC OUT, AUX IN, MPX OUT, イヤホン DC OUT, EXT POWER

電気的特性

〈A M 部〉

受信周波数	530~1,605 kHz
中間周波数	455 kHz
最大感度 (出力 50mW時)	27 dB/m (22.4 μV/m)
SN比	37 dB (入力 60 dB, 1,000 kHz にて)
選択度	37 dB (1,400 kHz にて)

〈F M 部〉

受信周波数	76~90 MHz
中間周波数	10.7 MHz
最大感度 (出力 50mW時)	-4 dB (0.63 μV)

実用感度 (出力 50mW)	5 dB (1.8 μV)
SN比	62 dB (入力 54 dB, 83 MHz にて)

〈A M・F M部共通〉

消費電流	無信号時 AM 22 mA FM 28 mA
	無ひずみ最大出力時 370 mA
出力	無ひずみ最大 700 mW 絞 大 1.1 W

付属品

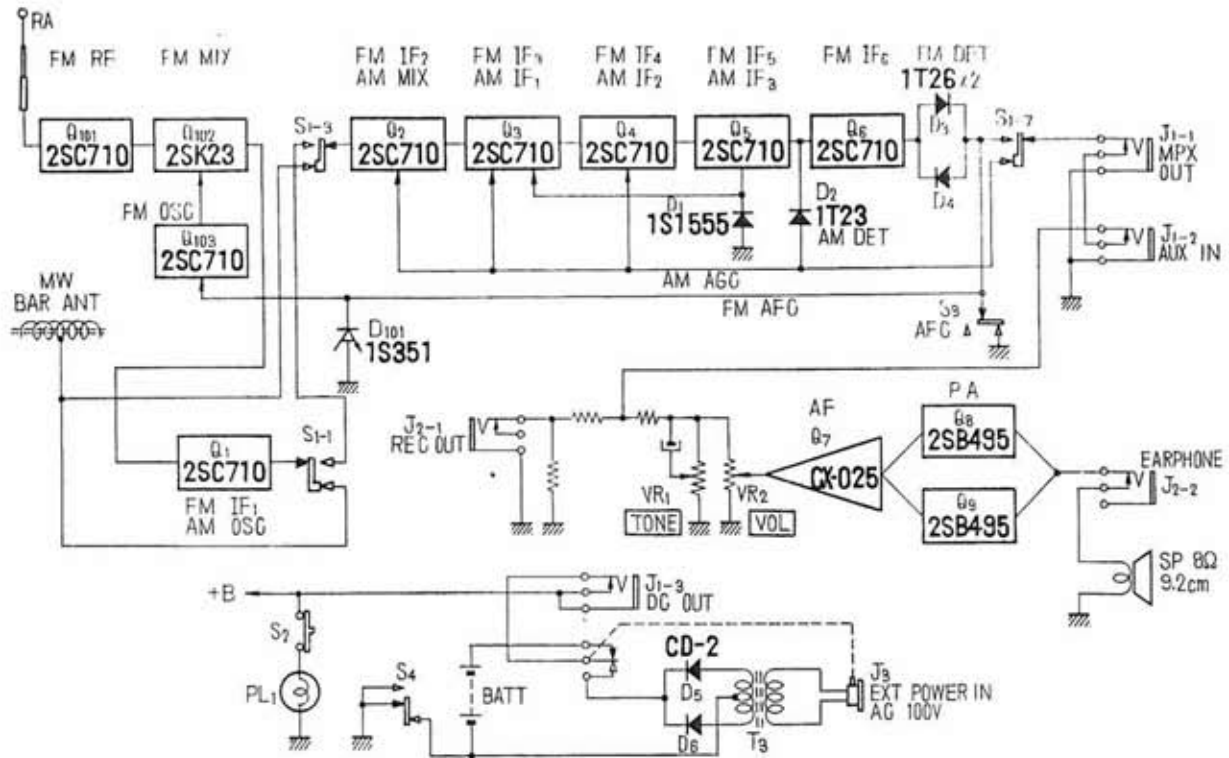
現用電池	UM-2	3
イヤホン	ME-20	1
キャリングケース		1
キャリングベルト		1
その他	シリコン布, 印刷物一式	

ソリッドステートIC **11R**

¥ 12,500

SONY

【ブロックダイアグラム】



1 図 ▲

【裏蓋のはずし方】



2 図 ▲

【部品表】

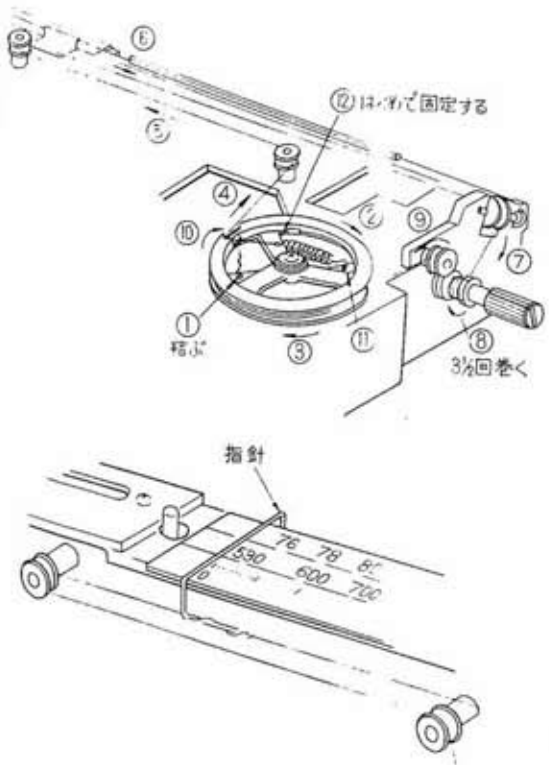
品名	部品コード	定価 (円)	備考
ダイヤルつまみ組立	X-38365-01-0	100	
VRつまみ組立	" -02-0	80	
バンド切替つまみ組立	" -03-0	20	
キャビ本体組立	" -81- ¹ / ₂	600	黄(裏蓋含まず)
裏蓋組立	" -82- ¹ / ₂	170	"(電池蓋含まず)
前面格子組立	" -83-0	200	
電池引出し布	3-811-637-00	5	
裏蓋止めねじ	3-830-365-00	5	
電池ばね	3-834-526-00	10	
電池蓋	" -638- ¹¹ / ₂₁	20	黄
トーンつまみ	3-836-526-00	10	
スライドVR 5kΩ (D)	1-222-	70	TONE
VR 5kΩ (D)	" -348-00	120	VOL
電源トランス	1-441-627-00	250	
ロッドアンテナ	1-501-106-00	350	
スピーカ	1-502-257-00	400	
2連ジャック	1-507-174-22	60	J2-1,2
3連ジャック	" -322-00	100	J1-1-3
外部電源ジャック	1-509-119-00	110	J3
AFCスイッチ	1-513-284-00	50	S3
電源スイッチ	1-514-729-11	120	S4
パイロットランプ	1-518-094-14	35	
電源コード	1-534-629-11	200	DK-16

【ダイヤル糸掛け】

糸掛けは、5図を参照し、次のように行ないます。

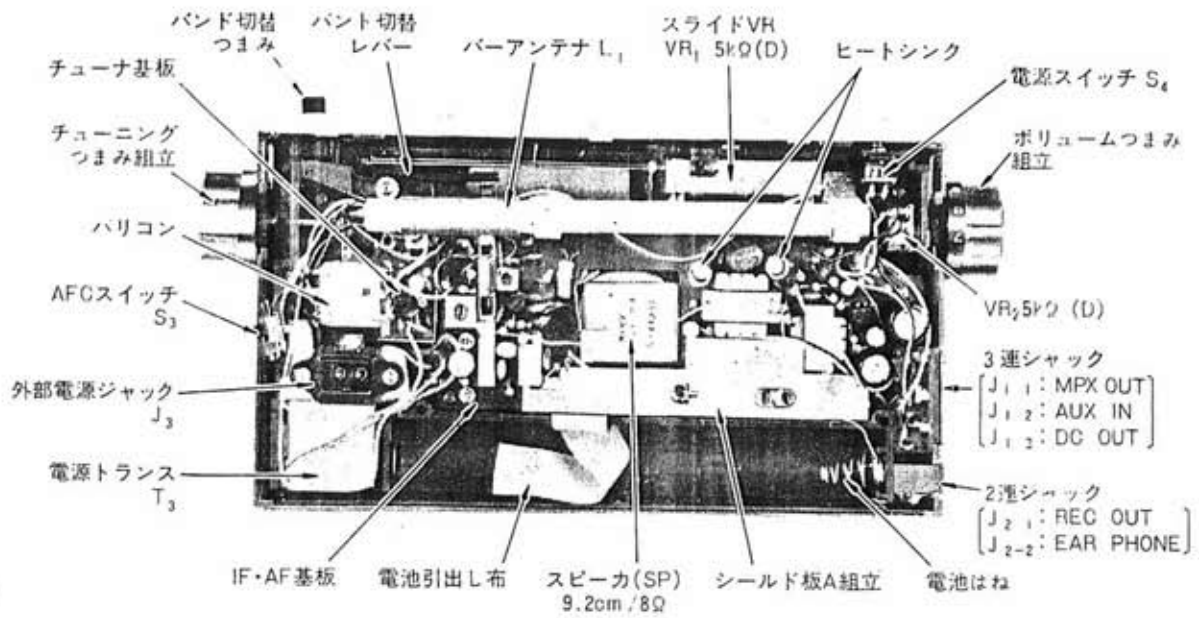
- 1) まず、85cm位のグイヤル糸を用意する
- 2) 糸をグイヤルドラムのリブの穴に結ぶ(1)
- 3) もう一つの穴にスプリングを掛けておく(10)
- 4) ②～④の順に糸を掛ける
- 5) スプリングに糸を通し、はとめで固定する(12)

なお、指針の取付けは、糸掛けが終わったままの状態（Cmax, fmin）で、指針が目盛板の“0”目盛の上になるように取付けます。



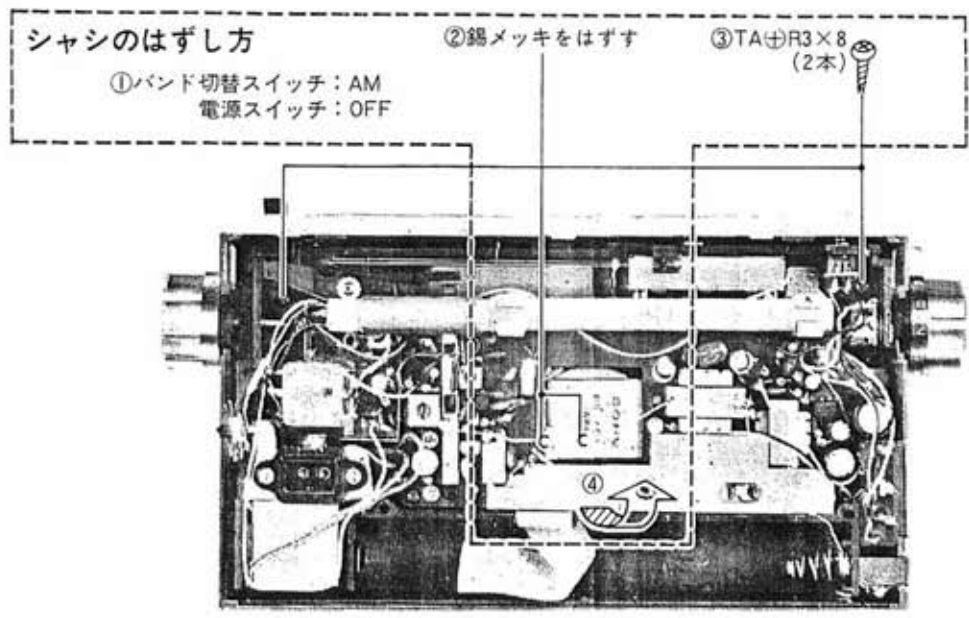
5 図 ▲

【各部の名称】



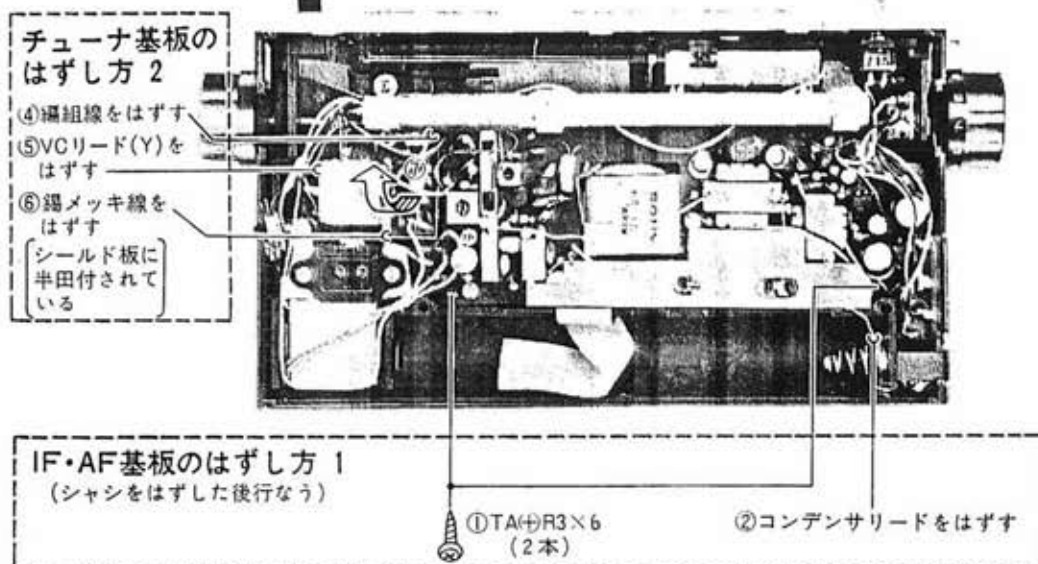
3 図 ▲

【シャシのはずし方】

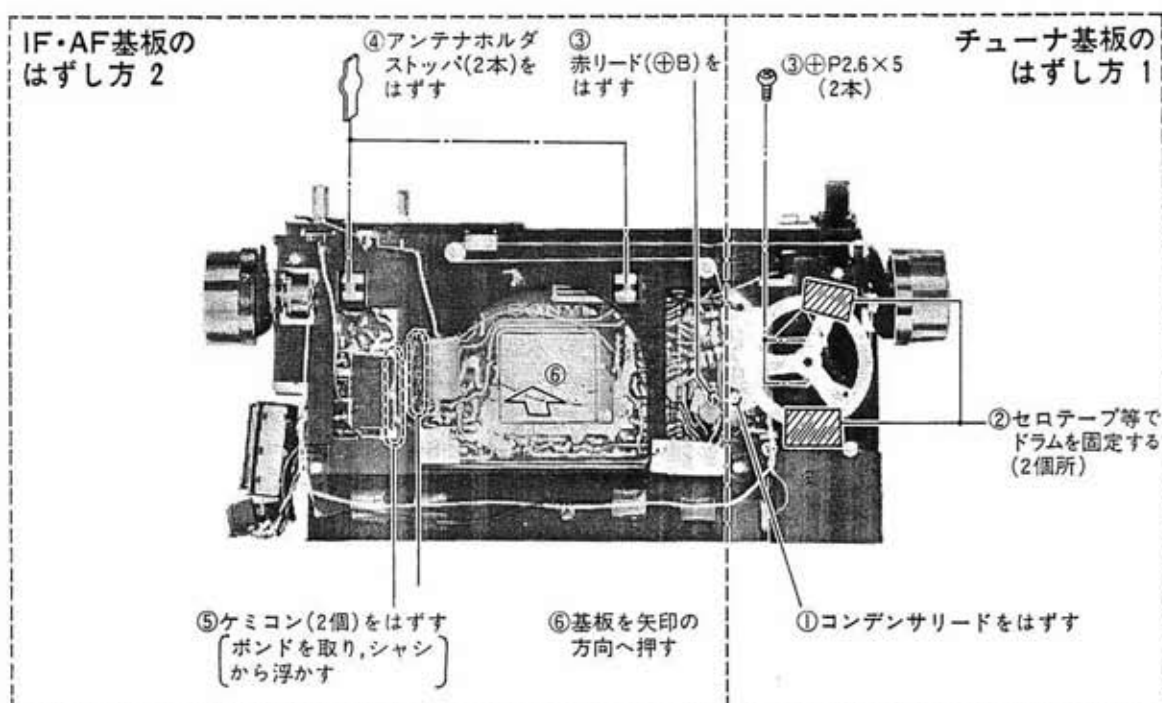


4 図 ▲

【各部のはずし方】



6 図 ▲



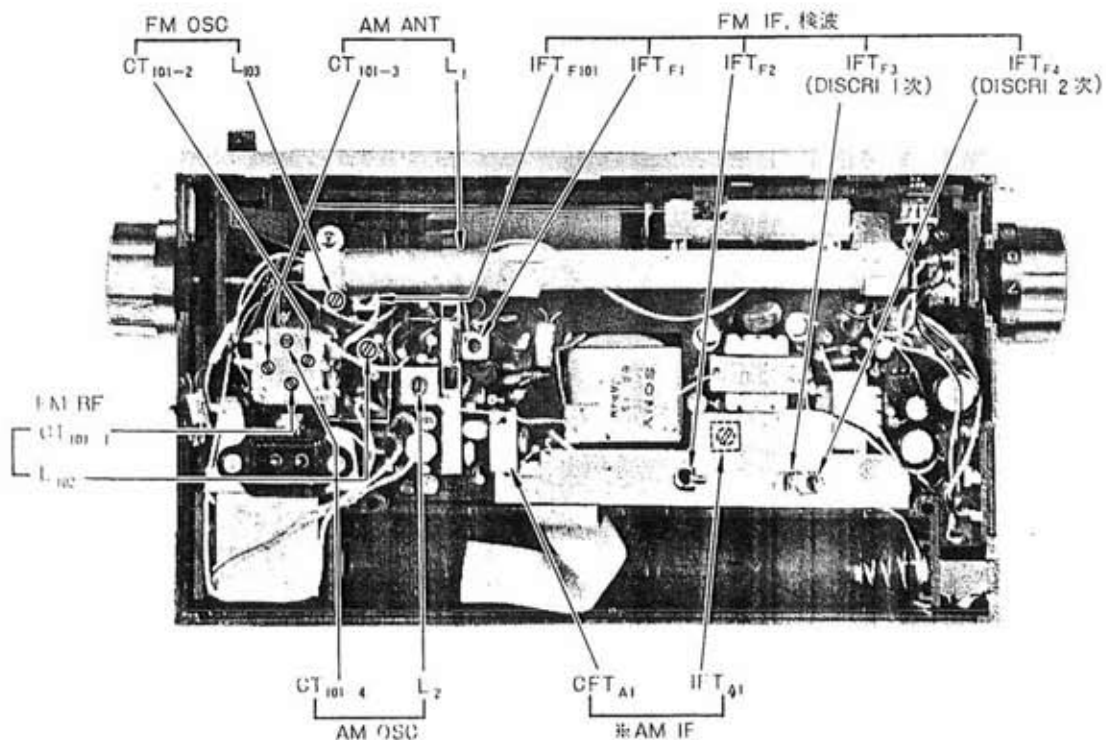
7 図 ▲



【調整要領】

	調整回路	発振器周波数	ダイヤル位置	調整箇所	調整方法
A	※中間周波	455kHz	ビートを起さぬ位置	IFT _{A1} CFT _{A1}	出力最大となるようにコアを回す
	発振 (受信範囲)	520kHz 1,680kHz	低 端 高 端	L ₂ CT ₁₀₁₋₄	受信できるようにコアを回す " トリマを回す
	アンテナ (トラッキング)	620kHz 1,400kHz	正しく同調をとる	L ₁ CT ₁₀₁₋₃	最大出力となるようにコイルを動かす " トリマを回す
※IFT _{A1} (シールド板の下) およびCFT _{A1} は、プリセットされているので調整の必要はありません。特に調整の必要が生じた場合にのみ上記のように行なってください。					
F	中間周波	10.7MHz	ビートを起さぬ位置	IFT _{F101} IFT _{F1-F4}	出力最大となるようにコアを回す
	検波	放送を受信し正確に同調をとる		IFT _{F4}	音質最良となるようにコアを回す
	発振 (受信範囲)	75MHz 91.5MHz	低 端 高 端	L ₁₀₃ CT ₁₀₁₋₂	受信できるようにコアを回す " トリマを回す
	高周波 (トラッキング)	75MHz 91.5MHz	低 端 高 端	L ₁₀₂ CT ₁₀₁₋₁	出力最大となるようにコアを回す " トリマを回す

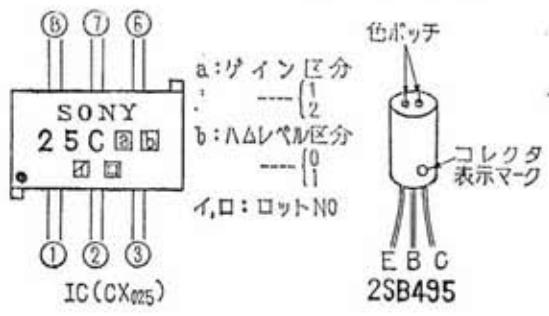
【調整箇所】



【IC, Q_{9, 10}, R₄₅の組合せ】

本機に使用されているIC (CX-025) 上面には9図のような表示a bがあります。この表示によりQ_{10, 11} (2SB495) とR₄₅には右表のような組合せがありますので、ご注意ください。

なお Q_{10, 11} は同色をペアで交換してください。

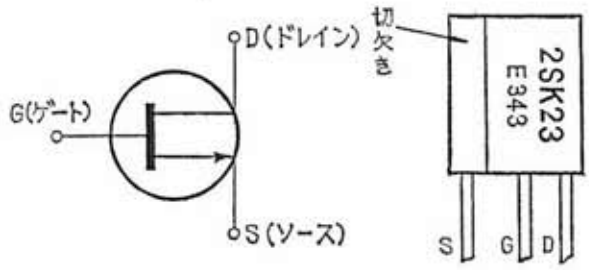


9 図

ICの表示 a b	2SB495 の色ポッチ	R ₄₅
1 0	赤・黒	910Ω
	青・黄	1.2kΩ
1 1	赤・黒	910Ω
	青・黄	1.2kΩ
2 0	赤・黒	510Ω
	青・黄	910Ω
2 1	赤・黒	510Ω
	青・黄	910Ω

【FETについて】

本機のFM MIX部にはFET (電界効果トランジスタ) が使用されています。その回路記号および端子図は10図のようになっています。



10 図

・ FET 良否の判別法

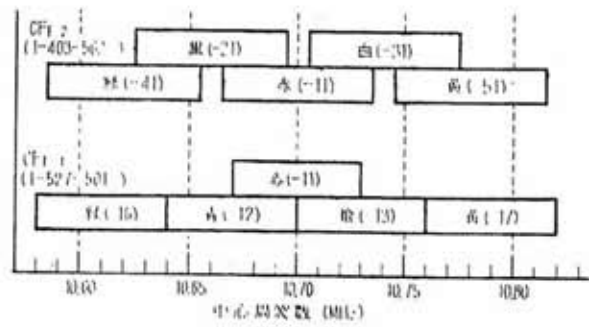
テスタ (サンワ360-GTR) をR×1000レンジにして電極間の抵抗を測定する。その結果が次のようであれば、一応動作すると判定できます。

- D-S間：導通あり (数100Ω)
- D-G間：半導体特性あり (順方向：数kΩ, 逆方向：数MΩ以上)
- S-G間：半導体特性あり (順方向：数kΩ, 逆方向：数MΩ以上)

【FM用セラミックフィルタについて】

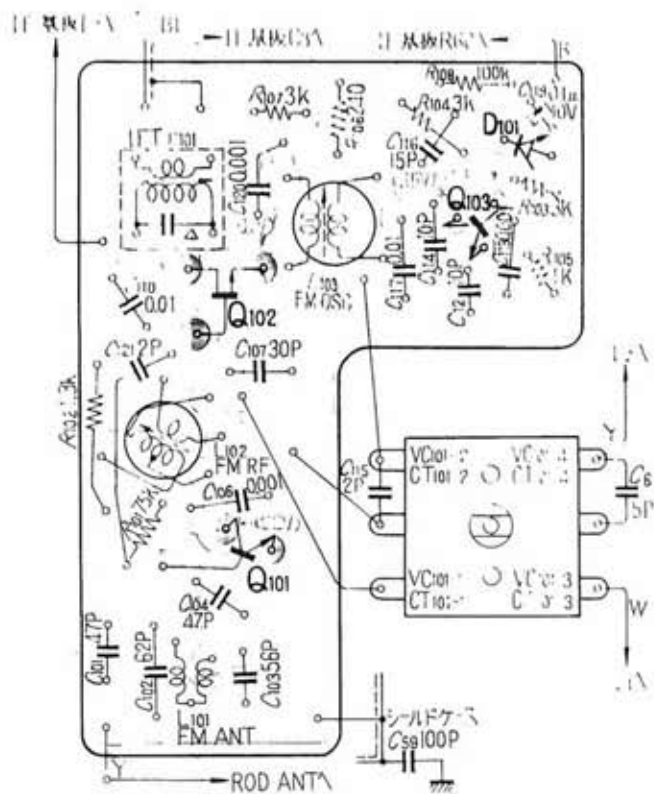
本機のFM用セラミックフィルタ (CF_{F1, F2}) は、中心周波数により、それぞれ頭部に色表示をして分類されています。また、下表のように組合せ (A~E) がありますので、交換するときは、必ずその組合せにあったものに交換してください。

組合せ	CF _{F1} (1-527-501-)		CF _{F2} (1-403-562-)	
	末尾	色表示	末尾	色表示
A	-11	赤	-11	赤
B	-12	青	-21	黒
C	-13	橙	-31	白
D	-16	緑	-41	緑
E	-17	黄	-51	黄



11 図 ▲

【FMチューナ部プリント図】



ICF-111 FMチューナ部プリント図